

横浜看護学雑誌投稿規程

(2012年8月1日改定)

第1条（趣旨）

この規定は、横浜看護学雑誌の投稿に係る事項を定める。

第2条（名称）

本誌の名称は、和文名で横浜看護学雑誌、英文名でYokohama Journal of Nursingとする。略誌名は、横看誌とする。

第3条（委員会）

本誌の編集、発行、管理に係る事項は、横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻・医学部看護学科横浜看護学雑誌編集委員会（以下：編集委員会）が定める。

第4条（投稿資格）

本誌に投稿できる者は、横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻教員ならびに医学部看護学科教員、若しくは編集委員会の承認を得た者とする。

第5条（原稿の内容・種類）

原稿の内容は、看護学及び看護学教育の充実・発展に寄与するものとする。

2 原稿の種類は、論壇、総説、原著、研究報告、その他とする。

- 1) 論 壇：看護学及び看護学教育に関する問題や話題について、今後の方向性を指し示す著述や提言。
- 2) 総 説：ある主題について知見を多面的に収集、また文献等をレビューし、総合的に概説したもの。
- 3) 原 著：独創的な研究をまとめた論文で、新しい知見が論述されているもの。
- 4) 研究報告：意義のある研究をまとめた論文で、ケーススタディなどを含む。
- 5) そ の 他：実践報告、学会・セミナー報告、その他重要な資料・報告などを含む。

第6条（倫理的配慮）

原稿は、他の出版物にすでに発表あるいは投稿されていないものに限る。また倫理上の配慮がなされ、その旨が本文中に明記されていること。

機関内倫理審査委員会の審査を受けた場合には、該当する機関の名称を明記すること。国内の機関内倫理審査委員会および海外の機関内倫理審査委員会ともに、該当する機関の名称はローマ字イタリック体で表記する（後者は英文表記）。

例) 横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻研究倫理審査会

Yokohama shiritsu daigaku daigakuin igakukenkyuka kangogakusenko kenkyu rinrishinsakai

第7条（執筆要領）

執筆要領は下記に従う。

原稿は、和文または英文とし、ワードプロセッシングソフトウェアで作成する。

原稿が和文の場合

- 1) 原稿は、A4版横書きとし、和文の場合は、1頁40字×30行程度（約1,200字）、MS明朝11ポイントにて作成する。
- 2) 原稿の長さは、要旨（和文・英文）、本文（図表、引用文献）を合わせて以下の文字数及び刷り上り枚数とする。刷り上り1枚は概ね2,400字に相当する。図表については本誌に掲載されている図表を参考に字数を勘案する。
 - (1) 論壇、総説、原著、研究報告：和文は19,200文字以内。英文は8,000ワード以内（刷り上り8枚以内）。
 - (2) その他：和文は12,000文字以内。英文は5,000ワード以内（刷り上り5枚以内）。
- 3) 原稿は、表紙、要旨、本文（図表、引用文献）より構成されていること。
 - (1) 表紙：原稿の種類、表題、著者名、所属と連絡先、キーワード、ランニングタイトル、別刷希望部数、要旨文字数、本文文字数、図表の数を記す。
 - ① 表題：和文40文字以内、英文14ワード以内で作成する。
 - ② キーワード：5個以内とし、和文、英文で作成する。
 - ③ ランニングタイトル：和文20文字以内、英文7ワード以内とする。
 - (2) 要旨：論壇、総説、原著論文、研究報告に付す。
 - ① 論壇、総説では、和文要旨（400文字以内）を付す。
 - ② 原著論文、研究報告では、和文要旨（400文字以内）及び英文要旨（250ワード以内）を付す。
 - (3) 本文の終りには、謝辞等の項を設けることができる。なお、当該研究に関して特定の研究費助成、便宜供与などの支援を受けた場合は、ここにその旨を記載すること。
 - (4) 図表は、本文とは別に作成し、本文右余白にそれぞれの挿入希望箇所を指定する。なお、図表は、そのまま製版が可能な水準のものとする。
 - (5) 数量の単位は原則としてSI単位に従い、記号で表す。
 - (6) 学名（微生物名など）はイタリック体で表す。
 - (7) 本文の見出しに使用するナンバーは、Ⅰ>1>1)>(1)>①の順で用いること。
 - (8) 各ページの左端に行数を付すこと。
 - (9) 原稿中の算用数字は全て半角を使用すること。
 - (10) 原稿中の括弧や句読点、特殊記号は、全角で統一すること。
 - (11) 引用文献は主要論文にとどめ、本文に引用した順に番号を付ける。本文中では該当箇所の右肩に片括弧を付けて番号を記載する。（例：先行研究によると^{3), 5-7)}）記載様式は下記の例に従い、著者が3人までは全員、4人以上の場合は3人目までを挙げ、4人目以降は省略して「他」とする。雑誌名は原則、和文は医学中央雑誌、英文はIndex Medicusの採用する略語を用いる。いずれにも該当しないものは正式雑誌名を記載する。なお、インターネットのホームページは原則として引用文献として認めない。

原稿が英文の場合

- 1) 原稿は、A4版横書きダブルスペースとし、Times New Roman 11ポイントにて作成する。
- 2) 原稿の長さは、要旨、本文（図表、引用文献）を合わせて以下の文字数及び刷り上り枚数とする。刷り上り1枚は概ね1,000ワードに相当する。図表については本誌に掲載されている図表を参考に字数を勘案する。
 - (1) 論壇、総説、原著、研究報告：英文は8,000ワード以内（刷り上り8枚以内）。
 - (2) その他：英文は5,000ワード以内（刷り上り5枚以内）。
- 3) 原稿は、表紙、要旨、本文（図表、引用文献）より構成されていること。
 - (1) 表紙：原稿の種類、表題、著者名、所属と連絡先、キーワード、ランニングタイトル、別刷希望部数、要旨文

字数、本文文字数、図表の数を記す。

- ① 表題：英文14ワード以内で作成する。各単語の先頭文字を大文字とする（ただし、3文字以内の接続詞、前置詞、また冠詞は除く）。
 - ② キーワード：5個以内とし、和文、英文で作成する。英文のキーワードは1つのキーワードにつき複数ワードで構成されていても構わない。
 - ③ ランニングタイトル：英文7ワード以内とする。文頭のみ大文字とし、あとは小文字で書く。
- (2) 要旨：論壇、総説、原著論文、研究報告に付す。
- ① 論壇、総説では、英文要旨（250ワード以内）を付す。
 - ② 原著論文、研究報告では、和文要旨（400文字以内）及び英文要旨（250ワード以内）を付す。
- (3) 本文の終りには、謝辞等の項を設けることができる。なお、当該研究に関して特定の研究費助成、便宜供与などの支援を受けた場合は、ここにその旨を記載すること。
- (4) 図表は、本文とは別に作成し、本文右余白にそれぞれの挿入希望箇所を指定する。なお、図表は、そのまま製版が可能な水準のものとする。
- (5) 数量の単位は原則としてSI単位に従い、記号で表す。
- (6) 学名（微生物名など）はイタリック体で表す。
- (7) 本文の見出しに使用するナンバーは、I > 1 > 1) > (1) > ①の順で用いること。
- (8) 各ページの左端に行数を付すこと。
- (9) 原稿中の算用数字は全て半角を使用すること。
- (10) 原稿中の括弧や句読点、特殊記号は、半角で統一すること。
- (11) 引用文献は主要論文にとどめ、本文に引用した順に番号を付ける。本文中では該当箇所の右肩に片括弧を付けて番号を記載する。（例：According to the other studies3）、5-7）記載様式は下記の例に従い、著者が3人までは全員、4人以上の場合は3人目までを挙げ、4人目以降は省略して「～et al」とする。雑誌名は収載誌略名で表記し、和文雑誌は医学中央雑誌、洋雑誌はIndex Medicusの採用する略語を用いる。いずれにも該当しないものは正式雑誌名を記載する。なお、インターネットのホームページは原則として引用文献として認めない。

上記以外の英文投稿に関する事項は、APA論文作成マニュアル第2版（アメリカ心理学会著、前田樹海、他訳、医学書院、2011）に準じる。

[記載様式の例]

□雑誌の場合

著者名：引用論文の題名、雑誌名、巻（号）：頁－頁、発行年。

和 文：臺有桂，田高悦子，今松友紀，他：地域看護学教育における健康危機管理演習の試み
－地域看護診断を基礎にした災害時要援護者への支援－，横看誌，4 (1) : 101-108, 2011.

英 文：Tadaka E, Kanagawa K : A randomized controlled trial of a group care program for community-dwelling elderly people with dementia, Jpn J Nurs Sci. 1 (1) : 19-25, 2011.

□単行本の場合

著者名：引用部分の題名、編者名（編），書名，版数，出版社，発行地：頁－頁，発行年。

和 文：上原誓志夫，田口理恵：3. 循環器の疾患-2) 高血圧症，井上修二（編），新臨床栄養学，光生館，東京：140-153, 2011.

英 文：Ringsven MK, Bond D, et al. : Gerontology and leadership skills for nurses, 2nd ed. Delmar, NY : 24-28, 2011.

第8条（投稿手続き）

投稿手続きは下記に従う。

- 1) 初回投稿時には、全ての原稿について、正本1部、副本4部を提出する。副本には著者名、所属、謝辞等、著者名が特定される事項を一切記載しない。写真は全てオリジナルを揃えるのが好ましいが、オリジナル1部と高画質の複写4部でもよい。また、投稿承諾書（全著者が承認した投稿および論文であることの承認、著作権委譲にかかる承諾書を兼ねる）を提出する。
- 2) 投稿原稿の採択ならびに掲載決定の通知を受けたときは、編集委員会より指定された期日までに、指定された方法で、最終原稿一式（電子ファイル）を提出する。
- 3) 投稿時は、封筒の表に「横浜看護学雑誌原稿」と朱書きした上で、〒236-0004 横浜市金沢区福浦3丁目9番 横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻・医学部看護学科内「横浜看護学雑誌編集委員会」宛に送付する。

第9条（論文の受付及び採否）

原稿の受付及び採否は次のとおりとする。

- 1) 原稿の到着日をもって、論文の受付日とする。
- 2) 原稿の採否（種類を含む）は、査読を経て編集委員会の審査により決定する。
- 3) 投稿された論文は、理由の如何を問わず返却しない。

第10条（著者校正）

著者校正は1回までとする。校正時の大幅な追加、修正は原則として認めない。

第11条（費用）

費用については次のとおりとする。

- 1) 掲載料は原則として無料とする。
- 2) 別刷りは著者負担とする。
- 3) カラー印刷および特殊な加工に要した費用は著者負担とする。
- 4) 規定の文字数を超えた場合は、超過分に対する印刷費用を著者負担とすることがある。

第12条（著作権）

本誌に掲載された論文ならびに電子ジャーナルの著作権は横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻・医学部看護学科に帰属する。

附則 この規程は、2007年 4月1日から施行する。

この規程の改定は、2009年 4月1日から施行する。

この規程の改定は、2010年 4月1日から施行する。

この規定の改正は、2011年 4月1日から施行する。

この規定の改正は、2012年 8月1日から施行する。

横浜看護学雑誌投稿原稿チェックリスト 受付番号：_____ 提出：_____年 月 日

本チェックリストを用いて原稿を点検、確認し、必要事項を記入の上、原稿に添付して提出してください。また、投稿承諾書（著作権委譲承諾書を兼ねる）も一緒に提出してください。下記項目に従っていない場合は、投稿を受付しないことがあります。

<論文の構成>

- ☐ 1. 表題の和文・英文は規定の字・語数であり、内容が一致している。
- ☐ 2. キーワードの和文・英文は規定の個数であり、内容が一致している。
- ☐ 3. ランニングタイトルの和文・英文は規定の字・語数であり、内容が一致している。
- ☐ 4. 英文は、native check 若しくは専門家による校閲を受けている。
- ☐ 5. 表紙、要旨和文、同英文、本文、図表の要素ごとに各々頁を改めて作成している。
- ☐ 6. 正本の表紙には、次の項目を記載している。：原稿の種類、表題、著者名、所属と連絡先、キーワード、ランニングタイトル、別刷希望部数、要旨文字数、本文文字数、図表の数
- ☐ 7. 副本の表紙には、次の項目を記載している。原稿の種類、表題、キーワード、ランニングタイトル、別刷希望部数、要旨文字数、本文文字数、図表の数
- ☐ 8. 副本については、氏名、所属、謝辞を取り外すとともに、原稿のすべての箇所において著者が特定されるような事項を隠すための処理をしてある。

<数値、記号の記載様式>

- ☐ 9. 本文にはページ番号を付している。
- ☐ 10. 各ページの左端に行数を付している。
- ☐ 11. 本文の見出しに使用するナンバーは、右記の如く構成している。I > 1 > 1) > (1) > ①
- ☐ 12. 原稿中の算用数字は全て半角を使用している。
- ☐ 13. 原稿中の括弧や句読点、特殊記号は、和文中では全角を、英文中では半角で統一している。

<図・表・写真の様式>

- ☐ 14. 図、表のフォントは、MSゴシックにて作成している。
- ☐ 15. 図、表、写真は1頁に1点を印刷し、通し番号（図1、図2、表1、表2...）が付されている。図、表のタイトルは、図は下に、表は上に記載している。
- ☐ 16. 本文右余白に図、表、写真それぞれの挿入希望箇所を指定している。
- ☐ 17. 図、表、写真はそのまま製版可能な水準である。
- ☐ 18. 表は、縦罫線を使用していない。

<文献記載様式>

- ☐ 19. 文献は引用文献に限り記載し、参考文献を記載していない。
- ☐ 20. 文献の記載方法は文献の種類ごとに投稿規程に従っている。
- ☐ 21. 文献は引用順に番号を付し、本文中では右肩に片括弧を付け番号を記載している。
- ☐ 22. 同一文献を繰り返し引用する場合は、初出の際に付した文献番号を使用している。

＜原稿の体裁および長さ＞

- 23. 原稿は、A4版横書きとし、和文の場合は、1頁40字×30行程度（約1,200字）、MS明朝11ポイントにて、英文の場合は、ダブルスペースとし、Times New Roman 11ポイントにて作成しているか。
- 24. 原稿の長さは下記に記入するとおり、原稿種類の刷り上がり規定枚数内である（図表は、A4判1点を2400字、A5判1点を1200字、A6判1点を600字相当と換算している。）

投稿字数 ①本文： 字

②和文要旨： 字

③英文要旨： 字相当（語数×1.6）

④ 図、表、写真： 字相当^{*1)}

①②③④の合計： _____ 字相当（原稿の種類： _____）

* 1) 図、表、写真の字数内訳

☐ A4判 (2400字相当) 枚
☐ A5判 (1200字相当) 枚
☐ A6判 (600字相当) 枚
☐ その他 枚

＜投稿倫理＞

- ☐ 25. 既に出版された原稿、図、表、写真の一部もしくは全部を転載する場合には、著作権の所有者より転載許可を受け、そのコピーを添付している。
- ☐ 26. 研究倫理審査委員会の承認を得ている研究の場合は、その委員会名（ローマ字イタリック体）と審査年月日、審査番号等を記載している。

投稿承諾書・著作権委譲承諾書

下記論文は、全著者が、横浜看護学雑誌の投稿規定に則った適切な論文であることおよび、横浜看護学雑誌に投稿することを承諾した論文であることを誓います。今までに他誌に発表されたことがなく、また他の雑誌に投稿中でないことを認めます。

横浜看護学雑誌に掲載されることが受理された際は、その著作権については、横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻・横浜市立大学医学部看護学科に帰属することを承諾します。また、論文を電子ファイル化し、横浜市立大学内外へ公開することを承諾します。

論文名*：

全著者名*：

著者の自署もしくは、記名・捺印

筆頭著者*	平成	年	月	日
共著者	平成	年	月	日
共著者	平成	年	月	日
共著者	平成	年	月	日
共著者	平成	年	月	日
共著者	平成	年	月	日
共著者	平成	年	月	日
共著者	平成	年	月	日
共著者	平成	年	月	日
共著者	平成	年	月	日
共著者	平成	年	月	日

*用紙が足りない場合や著者が異なる機関に所属する場合は、複写の上、複数枚提出しても構いません。但し、論文名、全著者名、筆頭著者はいずれの用紙にも記載してください。

編 集 後 記

この度、横浜看護学雑誌第7巻第1号を無事、発刊することができ、まずは、関係者各位に深く感謝の意を表する。なお、この場で改めて一連の編集作業を振り返り、いくつかの思いを述べたい。

本誌は、学術雑誌として一つの体系を成している。通常、学会等で発刊される学術雑誌は専門分野に特化した色で染められ、確固たる姿勢を立脚している。特にインパクトの高い雑誌の投稿や編集のための規則は、堅実に遵守されなければならない傾向があるように思う。ともすると、雑誌にフィットした内容であるか、あるいは投稿時の作法が適切かどうかでリジェクトが即決されるという実態があることは否めない。グレードの高い雑誌への掲載に向けての過酷なレースを乗り越えるためには、知力も体力と同様で、高い目標設定である程、緻密な計画と準備、実践と評価が幾度となく繰り返され、緊張感をもって洗練されていく必要性がある。そして、この活動には、指導者や関係者といった人間的要素を包含した良好な環境、挑戦の場の設定といった要因も不可欠である。

上記のようなことを鑑みた場合、本誌については、高い目標に向けての学術活動の基礎となるべく、十分な条件を備えていることを強調したい。投稿された原稿は、当然、ピアレビューを経るわけだが、予め査読者には教育的配慮を頂けるよう依頼していた。この理由は、本誌の投稿によって良い学びとなり、その後の発展につなげたいという思いからである。結果、査読者からは非常に丁寧なコメントを頂き、投稿者もそれに応えるといったやり取りが終始変わらず白熱して行われ、依頼をした編集委員会でも終息の方向性やご負担を案じた程である。しかし、投稿者および査読者の皆様の熱意やインタラクションが成果物に影響を与えることはいうまでもなく、より精選された原稿にみるみる仕上がっていく様子に深い感銘を受けたものである。さらに、日々の研究・教育・臨床に関わる実践報告や資料等も数多くみられた。紀要のメリットとして、多領域にわたり比較的自由なテーマ性をもって活動内容をご紹介頂けることにあると考えるが、国内外での諸活動を欧文でご紹介頂くなど、多彩な形をもって、本学関係者の理解を深めるとともに、効果的に広く情報発信をして頂いたと感じる。

本誌は、看護学の紀要としては、横浜市立大学らしい躍動的で国際色豊かな内容であろうかと思う。本誌関係者の先人の思いやご苦勞を想起し対応するとともに、本編集委員会でも多少なりの工夫を取り入れた。本誌が次世代への糧となれば幸いである。

最後に、発刊までの一連の作業に多大なるご協力を頂いた企業の皆様を含め、関係者各位に再度、心より感謝を申し上げる。

2014年3月

横浜看護学雑誌編集委員長 千葉 由美

第7巻第1号 横浜看護学雑誌編集委員会

委員長 千葉 由美

委員 松下 年子 野村 明美 井上 聡

柏木 聖代 田辺有里子 徳永 友里

初田 真人